

令和7年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（竹田 幼稚園）

教育目標

考える力・創り出す力を伸ばす

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和7年10月17日～27日	学校運営協議会理事

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- 子どもたちが主体的に遊んでいる様子や、友達と思いを伝え合っている姿について話し合う。研修などで具体的なエピソードを共有しながら、子どもの成長や発達、環境の整え方、教師のサポートについて意見交換を行う。
- 異なる年齢の子どもたちが交流する「幼稚園家族」の取り組みを通じて、様々な人と関わるための援助や環境について考える。子どもたちが人と関わる楽しさや、つながりの心地よさを感じられるようにする。

（取組結果を検証する）各種指標

- 日々の活動から得られる具体的なエピソードから検証。（子どもたちが主体的に遊び、友達と気持ちを言葉で伝え合うための環境を整える方法、教師がどのように援助するかについて考察する研修を実施。）
- 公開保育の実施と事後研修で行われる協議と指導助言。（環境の整え方や教師の援助について学んだ内容を共有。）
- 保護者アンケートの関連項目についての回答を集計分析。（結果を今後に反映。）

中間評価

各種指標結果

・エピソード研修について

学校指導課の助言を受けながら研修を進め、一人の子どもの心の変化に寄り添う支援、友達との関わりの中で自分の思いを表現できるようにする支援、生き物とのふれあいを通して愛着を育む支援について考察を深めた。

・研究保育について

小学校の教員と連携して研修を行い、子どもの姿の捉え方について、個々の様子や「10の姿」、環境、教師の支援の視点から意見交換をすることができた。

・保護者アンケート結果について

「子どもが夢中になって遊ぶことを通して、主体的に学ぶ力（遊びに向かう力）を身につけていると思うか」という項目に対し、「あてはまる」と回答した保護者は88%、「ややあてはまる」は12%であった。

自己評価

分析（成果と課題）

・エピソード研修について

子どものその瞬間の心の動きを捉え、寄り添い、受け止め、友達との関係づくりを支援する教師の関わりについて考える機会となった。エピソードを共有することで、他の教員の考え方や願い、援助の方法に触れ、遊びを深めることができた。今後は、各学年の発達段階に応

自己評価	<p>じた関わり方や環境づくりについて、さらに検討していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究保育について 小学校教員との協働により、子どもを多面的に捉える視点を得るとともに、幼児期の遊びの重要性を再認識することができた。子どもの育ちの連続性や、幼児期の遊びの充実について積極的に発信していきたい。今後の課題としては、子どもの思いと教師の願いやイメージを共有しながら遊びを展開するための教師の関わり方や、学年を越えた連携の在り方をさらに深めていくことが挙げられる。 ・アンケート結果の考察 子どもが幼稚園に行くことを楽しみにしている様子から、園での生活を楽しんでいると保護者が感じていることがうかがえる。教職員が「夢中になって遊ぶ」ことを意識し、遊びの充実を願って関わっている姿勢が、アンケート結果に反映されたのではないかと考えられる。
学校関係者評価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究保育や日々の保育を通して 子どもの心の動きや人とのつながりに目を向けながら、それに応じた支援の在り方について継続的に考えていく。 ・園全体での環境づくりと援助の工夫 幼稚園の職員や他学年との関わりを含め、子どもがさまざまな人と関わるような援助や環境について園全体で検討し、それぞれの学年の発達段階に応じた育ちがつながっていくようしていく。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内での行事や日常の活動を通して、異年齢の子ども同士が関わり合う「幼稚園家族」の取り組み内容。 ・アンケート「子どもは、夢中になって遊ぶことを通して、主体的に学ぶ力を（学びに向かう力）を身につけていること」の回答。 <p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>幼稚園では、子ども一人ひとりを大切にした教育を今後も継続してほしい。また、さまざまな人の関わりが子どもの成長にとって重要であることから、異年齢児との交流や「幼稚園家族」としての活動を通じて、豊かな人間関係を築く経験を十分に積んでほしい。</p>

(2) 幼保小の架け橋プログラムの推進に関して

具体的な取組	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流を促進するため、事前と事後に研修を行い、子どもの成長や課題について考察する。 ・幼稚園、保育園、小学校の教員が互いの保育や授業を見学し、子どもの発達や心の動きについて理解を深める。これにより、教育の連携を強化し、子どもの学びをつなげるために、教師の援助や環境の整え方について考える。 ・子どもたちの姿を観察し、その結果を基にカリキュラムを見直し、改善する。 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流活動などの子どもたちの様子を観察と感想の考察。（活動内容を見直すための研修を実施。） ・子どもの成長や教師のサポートについての具体的な事例を共有。（公開保育や公開授業、事後研修を実施。） ・アンケートの関連項目についての回答。
--------	--

中間評価

各種指標結果

・公開保育・授業および幼保小交流の取り組み

幼稚園での公開保育（1回）、小学校での公開授業（2回）、保育所での公開保育（3日間の自由参観）、さらに幼稚園・保育所・小学校による交流を2回実施した。それぞれの研究協議では、幼稚園教員・小学校教員・保育士が同じグループで話し合い、子どもの姿の捉え方や援助の方法について意見を交わした。

・架け橋期カリキュラムの見直し

幼児期の教育に携わる幼稚園・保育所の教員を中心とした研修を初めて実施し、子どもの姿を丁寧に見取る視点を共有することができた。

・保護者アンケート結果（幼保小・地域との連携について）

アンケート項目「幼稚園は保育所・小学校や地域と連携して、子どもを育もうとすること」に対する保護者の回答は、「あてはまる」が91%、「ややあてはまる」が9%という結果であった。

自己評価

分析（成果と課題）

・幼稚園公開保育

昨年に引き続き、幼稚園の5歳児公開保育には小学校教員全員が参加し、保育を1時間じっくりと参観する機会となった。研究協議では、グループに分かれて「個の見取り」「環境構成」「教師の援助」について意見交換ができ、小学校教員にとって幼児教育への理解を深める貴重な時間となった。

・幼保小交流の取り組みと課題

1学期には砂場遊びや水遊び、2学期には運動遊びや秋みつけなど、年間を通して「つながり」や「主体性」を意識した交流を計画した。年度当初には教員間で交流のねらいを共有し、5歳児と1年生のペア活動を取り入れることで、子ども同士の関係が深まるよう工夫した。一方で、事前・事後の打ち合わせの日程調整や、参加できない教員へのねらいの共有など、運営面での課題も見られた。

・幼保合同研修の成果と課題

これまで実現が難しかった幼稚園・保育所合同の研修を初めて実施できたことは大きな成果である。保育所の勤務体制の関係で参加が難しい教員もいたが、今後はより多くの教員が参加できるよう、負担が少なく継続可能な研修の在り方や、教員の学びにつながる内容について検討していきたい。

・アンケート結果の考察

アンケート項目「幼稚園は保育所・小学校や地域と連携して、子どもを育もうとすること」に対して、保護者の回答は「あてはまる」が91%、「ややあてはまる」が9%という結果であり、園の連携や教員の研修への取り組みについて、さらに周知を図る必要がある。

分析を踏まえた取組の改善

・幼保小交流における教員の連携と意識の共有

事前・事後の研修を通して、子ども同士のつながりや個々の学びや育ちをみんなで共感できる関わりを意識しながら、教員同士が活動のねらいを共有し、援助の在り方について考える機会を持つことができた。今後は、より日常的な場面での連携、協働的な取り組みを模索する。

・幼児期の育ちをカリキュラムに反映

幼稚園での公開保育や研修を通して得た幼児期の育ちに関する学びを、今後のカリキュラムに反映させていくことが必要と考える。これまでの慣例的な取り組みも見直す必要がある。

・保護者・地域への発信と理解の促進

幼保小交流の様子や子どもの育ち、教員間の研修の取り組みについて、ホームページや園内掲示、終業式などを通して保護者や地域に向けて発信し、「架け橋期」の充実や幼児教育の質の向上に対する理解を深めていく。

	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開保育や幼保小交流を通じた研修 ・架け橋期カリキュラムの見直しに向けた研修 ・アンケート「幼稚園は保育所・小学校や地域と連携して、子どもを育もうとすること」結果（幼保小・地域との連携について）
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>地域の保育所や小学校との子ども同士の交流だけでなく、先生同士が連携し、情報を共有しながら取り組んでいることは非常に意義深いと感じている。地域の子どもたちの健やかな育ちのためには、教育・保育に関わる者同士がつながりを持ち、共通理解のもとで支援していくことが大切である。</p>

(3) 預かり保育に関して

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異なる年齢の子どもたちが自然に関わり合い、互いに成長し合う機会を大切にする。そのために、教師は子どもたちが自主的に交流できるように援助する。 ・就労や育児のニーズに応じて、年少組の預かり保育が増えていることを踏まえ、年齢に適した遊具や環境を整える。預かり保育担当者と協力して、子どもたちが安心して楽しく過ごせるように工夫する。 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加人数。(周知活動を検討。) ・子どもたちの反応。(活動内容を検討。) ・保護者アンケートの関連項目についての回答を集計分析。(結果を今後に反映。)
--	--

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早朝預かり保育は、5歳児と4歳児が2名ずつの固定メンバーで、曜日によって変わるが、2人～4人の利用である。通常預かりは、5歳児が7～8人、4歳児が2～3人、3歳児が3～4人、平均13～14名の利用で、ほぼ就労事情での利用である。 ・遊びの見取りから、遊具や環境の整備を行っている。 ・保護者アンケート項目「園は、安心・安全な預かり保育の運営を行っていること」の回答は、「あてはまる」82%、「ややあてはまる」18%であった。
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早朝預かり保育は、静かな朝のゆったりとした時間を穏やかに過ごせるように、落ち着いて遊べる遊具などを準備したり、教師との会話を大事にしたりしている。子どもたちも朝の雰囲気を楽しみながら過ごしている。通常預かり保育では、継続ができるように作品を残しておくことで、楽しみに参加する姿が見られている。 ・保護者の間違いで利用の登録が出来ていなかった子どもが、急遽、預かり保育になるような場合など、嫌がる子どもの対応に苦慮する場面が少なからずある。また、個別に支援が必要な子どもが参加する時の安全確保も大きな課題である。 ・アンケートでは、「ややあてはまる」が16%と、やや高い値である。これは、上記の支援が必要な子どもへの対応に対する不安ではないかと考えられる。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿から、子どもが興味をもったり、楽しんだりできる遊具の種類や活動を増やす。

自己評価	<p>また、保護者が安心して子どもを参加させことができるように、特に支援の必要な子どもに対して、通常保育でも取組を進め、預かり保育へ繋ぐようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育利用について、広く周知を図る。
学校関係者評価	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加人数 ・保護者アンケート項目「園は、安心・安全な預かり保育の運営を行っていること」の回答 <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「預かり保育」の認知度を上げる取り組みが必要。

(4) 子育ての支援に関して

具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「ほっこり子育てひろば」(ひだまりサロン) では、保護者同士が子育ての困りごとや喜びを共有し、安心して楽しめる時間を提供する ・満3歳児を対象とした「いちご組」を開設し、地域の未就園児に対する子育て支援を強化する。 ・児童館や保育所と連携し、保護者や子どもの実態について情報を交換する「ぐんぐん会議」を定期的に開催する。 ・地域の事業に参画し、子どもたちの成長を支えるための環境を整える。
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ほっこり子育てひろばの実施回数と参加者数。 ・「ぐんぐん会議」の実施回数とその内容。 ・保護者アンケートの関連項目についての回答を集計分析。

中間評価

各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> ・「ほっこり子育てひろば」(ひだまりサロン) 5回実施 (参加者 16名)。家庭教育学級は日程調整中(3学期)。 ・「ぐんぐん会議」3回実施。各施設の現況の報告と情報交換。 ・保護者のアンケート項目「園は、保護者の子育て支援の充実を図っていること」の回答は、「あてはまる」が94%「ややあてはまる」が6%であった。
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ほっこり子育てひろば」(ひだまりサロン) は、毎月の誕生会後に開催しており、日常的な話題を中心に楽しい時間になるように心がけている。少人数で話しやすい雰囲気で、子育ての悩みだけではなく、家庭の在り方などについても前向きに話すことができた。ただ、就労のために参加できない保護者も一定数いるため、別の機会を設けることも検討する必要がある。 ・「ぐんぐん会議」では、11月のイベントの打ち合わせや情報共有を行った。各施設の現況、子どもや保護者の様子を共有することで、地域を俯瞰した視点を持つことができた。 ・預かり保育、業者弁当、未就園児クラスについては、概ね好評である。 ・未就園児クラスの活動が充実し、口コミでの広がりを見せている。新たな利用者が増え、地域の子育て支援につながっていると感じる。

自己評価	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・「ぐんぐん会議」では、今後も児童館・保育所との連携を継続し、地域の実態把握に努めたい。 ・未就園児クラスについては、口コミだけではなく、さらに広報が必要。
学校関係者評価	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ・ほっこり子育てひろばの実施回数と参加者数。 ・教育相談（未就園児クラス）の取組や参加人数。 ・アンケート「園は、保護者の子育て支援の充実を図っていること」の回答。

（5）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）について

具体的な取組	具体的な取組
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会で幼稚園の教育方針について発信し、幼稚園教育の理解を深める。 ・幼稚園評価で、保護者や関係者から意見を聞き、評価委員会で教育計画の改善を図る。
(取組結果を検証する) 各種指標	(取組結果を検証する) 各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会での園行事や地域交流についての意見聴取。 ・評価委員会での検証。 ・保護者アンケートの関連項目についての回答を集計分析。

中間評価

各種指標結果	各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・6月26日学校運営協議会で、教育目標や園の実態について発信した。 ・評価委員会を行い、保護者評価と教職員評価の結果をみて、違いや今後の課題などを出し合った。 ・アンケート「幼稚園は保育所・小学校や地域と連携して、子どもを育もうとすること」に対して、保護者の回答は「あてはまる」が91%、「ややあてはまる」が9%という結果。
分析（成果と課題）	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域への教育方針の発信と子どもの成長の共有 園の運動会などの行事を通して、地域の方々に子どもたちの成長した姿を見ていただく機会となった。 ・評価委員会での振り返りと課題の共有 保護者評価とともに学級経営を振り返る中で、以下のような課題が挙げられた。 <ul style="list-style-type: none"> - 3歳児：先生との信頼関係を築きながら、基本的な生活習慣を身につけるための丁寧な関わりの継続 - 4歳児：友達や集団で遊ぶ楽しさを十分に感じられるようにすること - 5歳児：さまざまな人と関わりながら、友達と遊びを発展させていけるようにすること ・保育所や小学校との連携とPTA活動の工夫 保育所や小学校との交流については、保護者から高評価の声が届いている。また、PTA活動についても可能な限り負担を軽減していく方針で運営されており、保護者から共感を得ている。
分析を踏まえた取組の改善	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域、保護者への情報発信の充実 ホームページやインスタグラムの定期的な更新を通して、幼稚園教育の取り組みや子どもた

自己評価	<p>ちの様子を地域や保護者に向けて発信しているが、今後も継続的な情報発信により、園の教育方針や活動への理解を深めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価委員会での意見を踏まえた教育の方向性 <p>評価委員会では、保護者の願いや担任の思いを受け止めながら、子どもが豊かな経験を通して成長できるよう、園の教育方針に基づいた取り組みを進めていく。今後も、子ども一人ひとりの育ちを大切にしながら、教育の質の向上を目指していく。</p>
学校関係者評価	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 園行事や地域との交流について、学校運営協議会での意見聴取 ホームページの定期的な更新 幼稚園評価結果についての評価委員会の実施 <p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>自分たちの関わりが子どもたちにとって良い体験になっていることを嬉しく感じている。今年の活動も楽しみにしている。今後、機会があれば保護者も一緒に参加できるような、より豊かな活動ができるとよいと感じている。</p>

(6) 教職員の働き方改革について

<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 業務の効率化と改善を行う。 行事内容の見直しや精選を行う。 働きがいと働き方についての意識改革を促す。 <p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT を活用した効率化。(教材教具の製作や連絡や配布文書作成、事務処理などで活用。) 時間外勤務の削減(定時と休憩時間一覧の提示。) 各担当業務の明確化。(校務支援員の有効活用など。) <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間外勤務の時数。 保護者アンケートの関連項目についての回答を集計分析。

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間外勤務の状況 管理職以外は 45 時間内である。
<p>自己評価</p> <p>分析 (成果と課題)</p> <p>校務支援員や特別支援加配などの職員が十分に機能しており、担任を支援するだけではなく、園全体の運営を円滑にしている。結果として、保育の質を落とすことなく時間外勤務時間の増加を抑制しているように思われる。ただし、担任の定時退勤は未だ難しい。また、管理職については、預かり保育の管理業務がある以上、定時の出退勤は現実的に難しく、時間外勤務時間も減少しない。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 業務の効率化をさらに推進すること (AI やデジタルツールの活用)。 業務内容についての自己点検 (過剰ではないか・自己満足に陥っていないか)。

	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none">・定時退勤の回数・時間外勤務の累計
学校 関係者 評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none">・働き方の取り組みが進み、その結果、「幼稚園の良さがなくなった」みたいなことにならない ようにしてほしい。